

環境データ

INDEX

- 2017年度の実績概要
 - 温室効果ガスの排出削減
 - 水資源の保全
 - 廃棄物の3R
- 2017年度のマテリアルバランス
- 味の素グループ製品のCFP値

環境データの対象組織

「環境」パートでは、「環境規程」に基づく「味の素グループ環境マネジメント」の対象範囲である、味の素(株)およびグループ会社(環境規程適用会社/2018年3月現在)における環境への取り組みを報告しています。実績集計は128事業所(事業の再編や工場の新設・廃止などにより、2017年度報告に比べ17事業所増加)を対象としており、この範囲での集計は、連結財務会計制度上の味の素グループ^{※1}全体の環境に関する実績を代表する内容です。

※1 味の素(株)、連結子会社および持分法適用会社

Eat Well, Live Well.



AJINOMOTO

2017年度の実績概要

■ 温室効果ガスの排出削減

■ 温室効果ガスの排出量と原単位の推移

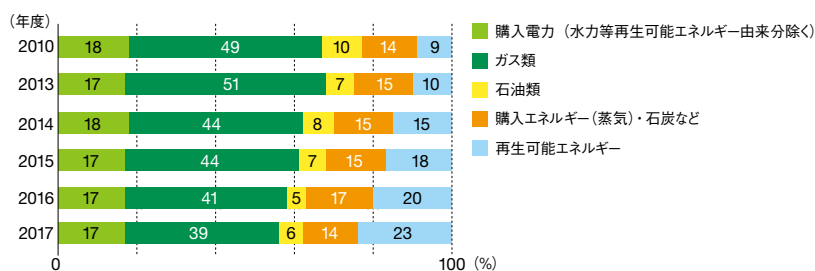
	基準年		実績						
	2005年度	比率	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	比率	差
温室効果ガスの排出量 (万t)	236	100%	220	221	223	233	230	100%	-6
日本	58	25%	39	40	45	47	46	20%	-12
アジア・アフリカ	87	37%	93	97	104	106	107	47%	20
欧州	33	14%	23	22	17	18	16	7%	-17
北米	23	10%	35	36	35	43	45	20%	23
南米	20	9%	19	18	14	11	8	4%	-12
中国	14	6%	10	9	8	8	7	3%	-7
温室効果ガスの排出量対生産量原単位 (製品1tあたり)	1.31	-	0.97	0.94	0.88	0.88	0.86	-	-
削減率	-	-	26%	28%	33%	33%	35%	-	-
参考値 生産量 (万t)	180	-	226	235	253	266	268	-	-

■ エネルギー投入量

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
エネルギー投入量 (TJ※2)	35,342	36,356	37,362	39,105	39,589
エネルギー投入量原単位 (製品1tあたり原単位)	15.6	15.5	14.8	14.7	14.8

※2 TJ=テラジュール、T(テラ)=10¹²

■ 味の素グループのエネルギー構成比(熱量換算)

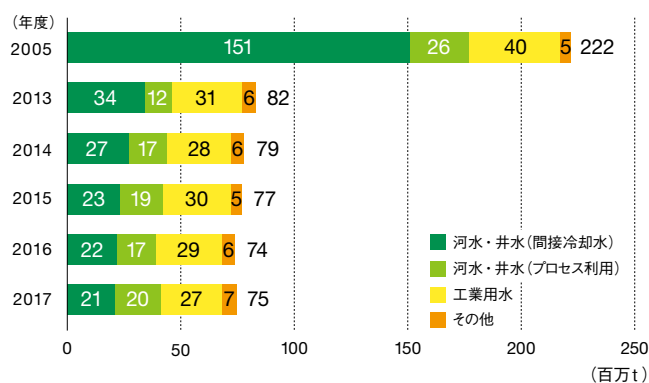


■ 水資源の保全

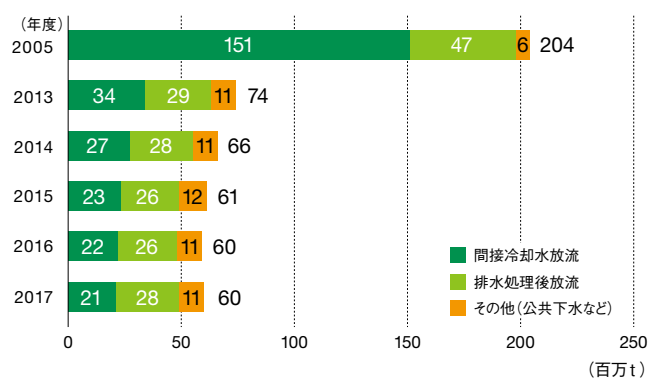
■ 水使用量の推移

	基準年		実績						
	2005年度	比率	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	比率	差
水使用量(百万t)	222	100%	82	79	77	74	75	100%	-147
日本	83	38%	34	30	32	27	25	34%	-58
アジア・アフリカ	82	37%	22	23	21	23	23	31%	-58
欧州	29	13%	13	11	11	12	12	15%	-18
北米	3	2%	5	5	5	6	8	10%	4
南米	18	8%	7	7	6	6	6	8%	-12
中国	6	3%	1	1	1	1	1	1%	-5
水使用量対生産量原単位 (製品1tあたり)	123	—	36	34	30	28	28	—	—
削減率	—	—	71%	73%	75%	77%	77%	—	—
参考値 生産量(万t)	180	—	226	235	253	266	268	—	—

■ 水使用量の推移

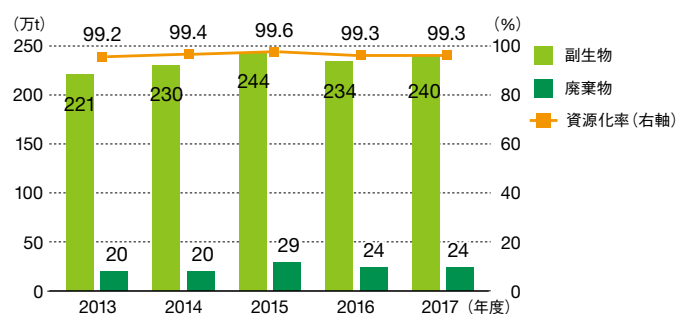


■ 排水量の推移

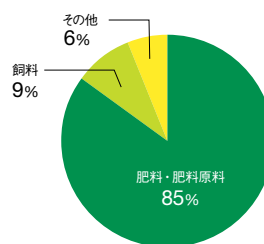


■ 廃棄物の3R

■ 副生物・廃棄物の発生量および資源化率の推移

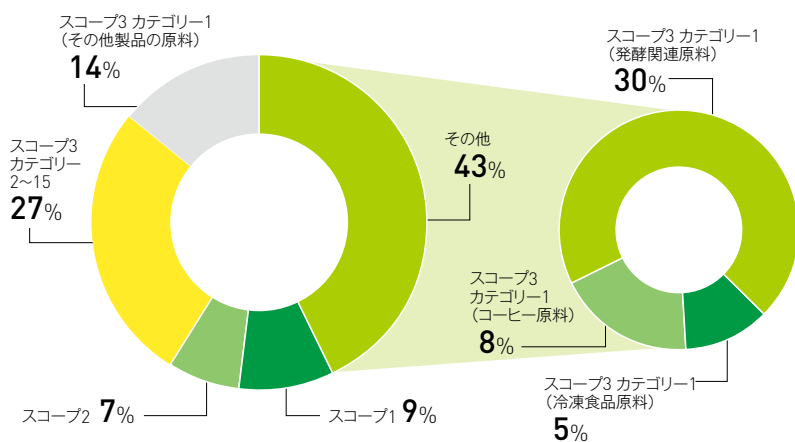


■ 副生物の資源化用途(2017年度)

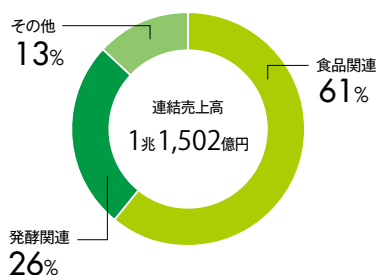


2017年度のマテリアルバランス

味の素グループのスコープ1・2・3の現況



連結売上高(参考)



(注記)
提携事業(油脂などの事業)を除く味の素グループの事業を、生産方法などによる環境負荷の特徴をもとに区分したものを、連結財務会計上の事業セグメントの区分とは異なる。マテリアルバランスの集計範囲と異なる。

スコープ1

事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス、車両など)

スコープ2

他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

スコープ3

その他の排出(製品の使用・廃棄、輸送、従業員の出張・通勤、投資など)

データの算定方法

● 集計対象範囲:

連結財務会計制度上の味の素グループのうち、全体の環境に関する重要な影響を与える主要126事業所を対象

● 集計対象期間:

2017年4月1日～2018年3月31日



原料

味の素グループが購入したすべての製品の資源採取段階から製造段階までのCO₂排出



生産

味の素グループの生産における燃料電力の使用によるCO₂排出



輸送

原料および製品の輸送によるCO₂排出



使用

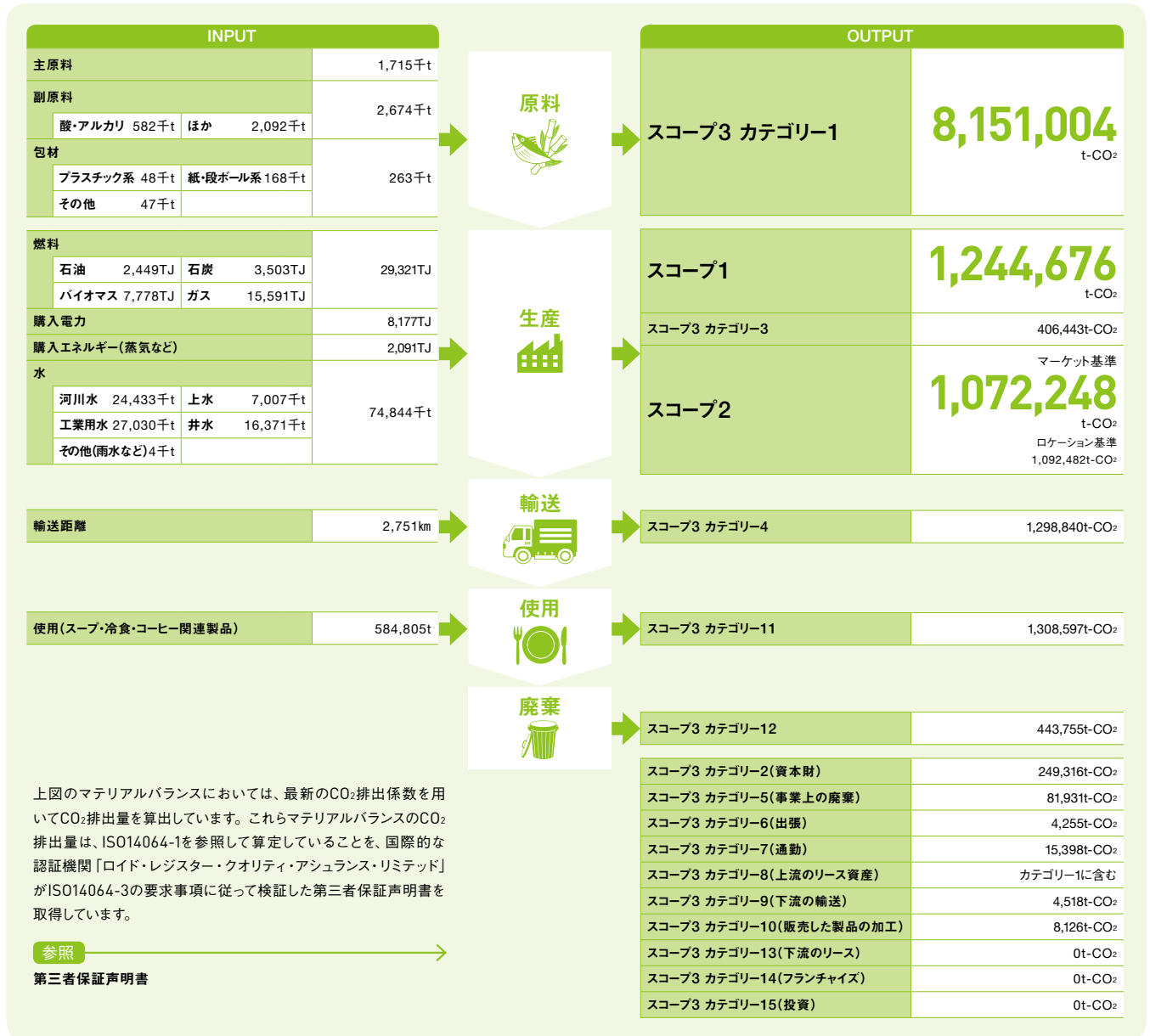
カップスープ、インスタントコーヒー、冷凍食品の調理に必要なCO₂排出



廃棄

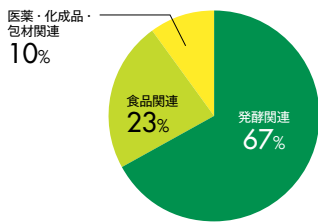
味の素グループの製品の包材が廃棄されたことによるCO₂排出

2017年度 事業のライフサイクルにわたるマテリアルバランス



水使用量

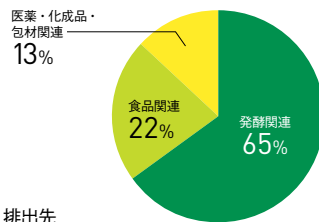
74,844千t



河水	24,433千t
工業用水	27,030千t
井水	16,371千t
上水・市水	7,007千t
その他(雨水など)	4千t

排水量

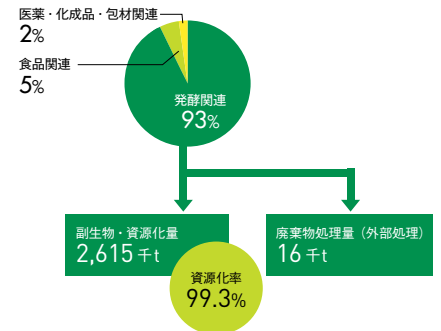
60,464千t



排出先	
公共水域 (間接冷却水)	20,824千t
公共水域 (処理後放流など)	28,341千t
公共下水	9,827千t
灌漑用水に利用	1,472千t
BOD量	189t
窒素	340t

副生物・廃棄物発生量

2,631千t



NOx	3,850t
SOx	2,541t
煤塵	2,914t
フロン	10t

味の素グループ製品のCFP値

製品名	生産工場	CFP値 ^{※3} (製品1kg当たり ^{※4})	料理一皿当たりの CFP値 ^{※5}
(1) 家庭用「ほんだし [®] 」	味の素(株)川崎工場	14.08kg-CO ₂ e	-
(2) 家庭用「味の素 ^{KK} コンソメ」(顆粒)	クノール食品(株)川崎事業所	6.87kg-CO ₂ e	-
(3) 「クノール [®] カップスープ」つぶたっぷりコーンクリーム	クノール食品(株)川崎事業所	7.08kg-CO ₂ e	-
(4) 「味の素 ^{KK} おかゆ」白がゆ 250g	クノール食品(株)川崎事業所	0.81kg-CO ₂ e	-
(5) 「Cook Do [®] 」回鍋肉用	味の素(株)川崎工場	2.95kg-CO ₂ e	一皿(約700g)あたり1.21kg-CO ₂ e
(6) 「Cook Do [®] 」ぎょうの大皿 豚バラ大根用	クノール食品(株)東海事業所	2.31kg-CO ₂ e	一皿(約1kg)あたり2.90kg-CO ₂ e
(7) 「鍋キューブ [®] 」鶏だし・うま塩	北海道クノール食品(株)訓子府工場	8.54kg-CO ₂ e	-
(8) 「ブレンディ [®] 」スティック カフェオレ	AGF 鈴鹿(株)	4.85kg-CO ₂ e	-
(9) 冷凍食品「レモンとバジルのチキン香り揚げ」	味の素冷凍食品(株)九州工場	5.84kg-CO ₂ e	-
(10) 「ヤマキめんつゆ」400ml、500ml 増量	ヤマキ(株)第二工場およびみなかみ工場	2.02kg-CO ₂ e	-
(11) 「Masako [®] Ayam」11g	インドネシア味の素社モジョケルト工場	2.49kg-CO ₂ e	-
(12) 「Aji-ngon [®] Pork flavor seasoning」400g	ベトナム味の素社ロンタン工場	2.68kg-CO ₂ e	-
(13) 「Ros Dee [®] Pork」75g	タイ味の素社ノンケイ工場	3.15kg-CO ₂ e	-

※3 「報告書」におけるCFP値は、(社)産業環境管理協会PCR No.PA-CG-02に従って算定されている。この算定システムと(1)～(9)の算定結果は、国際的な認証機関「ロイド・レジスター・クオリティ・アシュアランス・リミテッド」よりISO/TS14067を基準とした第三者保証証明書を取得している。

※4 規格で定義された機能単位は、各製品「1kgあたり」としている。

※5 このCFP値には、野菜や肉などの具材のCFP値が含まれている。